

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

42

2011 AUTUMN

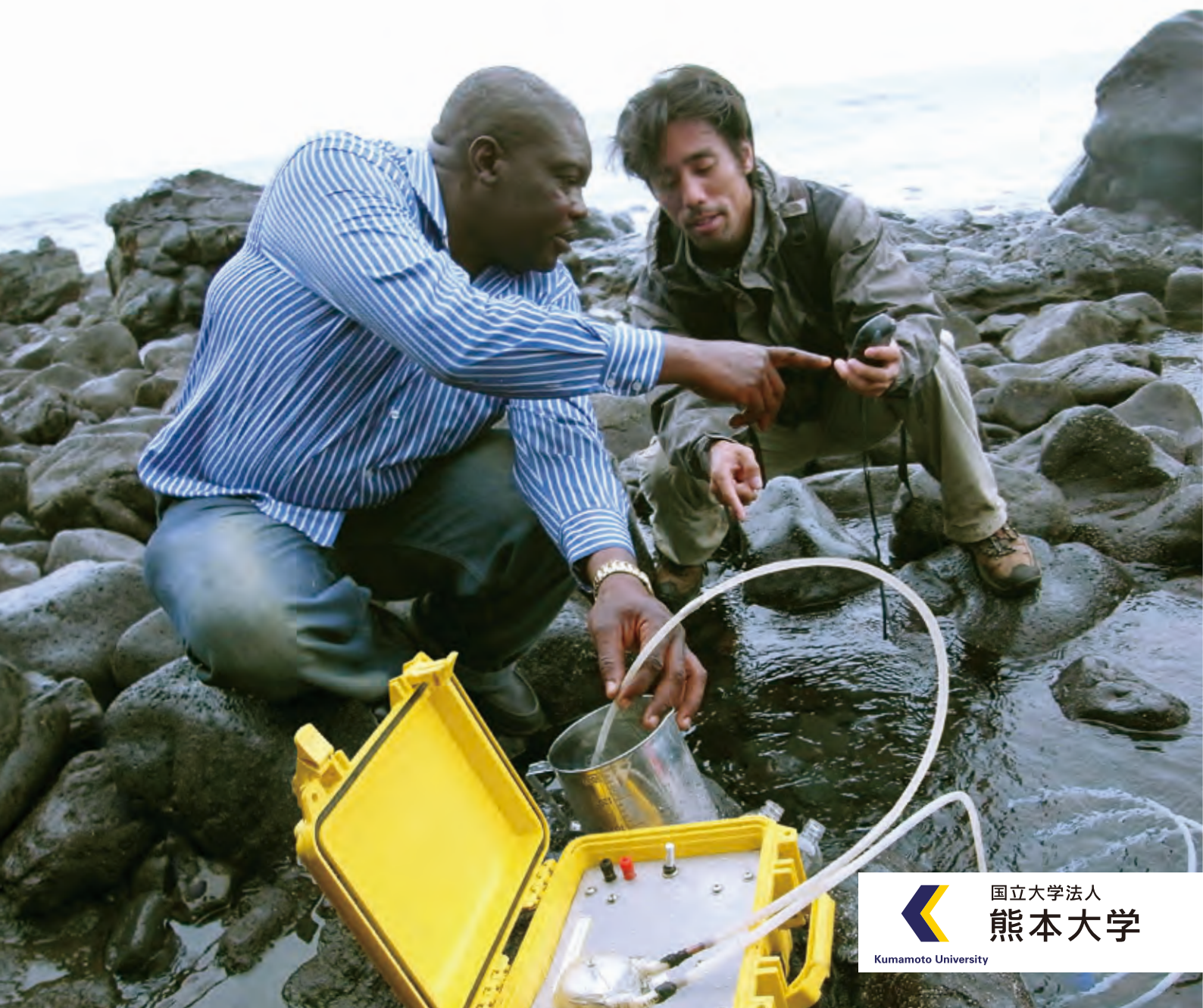
特集Ⅰ

躍動する未来を創る 若手研究者たちの挑戦!

特集Ⅱ

Welcome!

熊大オープンキャンパス



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CAMPUS SCENES キャンパスの風景

武夫原

旧制第五高等学校の運動場は「武夫原」と呼ばれ、今もその姿を黒髪北キャンパスのグラウンドに残している。五高寮歌「武夫原頭に草萌えて」で知る人も多い。

熊大通信 vol. 42

2011 AUTUMN



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】	国立大学法人熊本大学 〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
【編集】	熊大通信編集委員会 田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科 大辻 正晴／文学部 河野 順子／教育学部 朝田 康禎／法学部 中田 晴彦／大学院自然科学研究科 米満 孝聖／大学院生命科学研究部 首藤 剛／大学院生命科学研究部 田中 尚人／政策創造研究教育センター 西村 兆司／マーケティング推進部広報戦略ユニット
【制作】	株式会社カラーズプランニング

CONTENTS

03	特集Ⅰ	躍動する未来を創る 若手研究者たちの挑戦！
09	研究室探訪	世界とつながる研究で 未来の医療を支える 大学院 生命科学研究部医学系 赤池孝章研究室
11	特集Ⅱ	Welcome! 熊大オープンキャンパス
13	国際交流	インタビュー 熊本大学から世界へ 上川みゆきさん 世界から熊本大学へ 徐子杰さん
15		卒業生ジャーナル
17		KUMADAI TOPICS
22		熊本大学基金よりお知らせ
	表紙	大学院先導機構 環境動態解析分野 細野高啓特任助教によるカメルーンでのサンプリングの様子



特集 I

The Challenge of the Young Researchers

who make the stirring Future.

躍動する未来を創る 若手研究者たちの挑戦!

「もっと知りたい」「深く向き合いたい」。そんな情熱を胸に、研究の道へ飛び込んだ若き熊大の研究者たち。一歩一歩、着実な歩みを記す5人の研究者にスポットを当て、彼らの思いを紹介します。

The Challenge of the Young Researchers
who make the shining future.

地下水の素性を解き明かす

No.1

大学院先導機構 環境動態解析分野 特任助教

細野 高啓 さん



化学マーカーで見る水の歴史

「魚がどうして土の中から石になって出てくるんだろう」。化石や岩石に出合い、その魅力に引き込まれてしまった幼い日の細野さん。やがて当然のように鉱物資源などを探求する地質学に取り組みました。

その後、石像建築や遺跡などの研究を続けていくうちに「水」に魅せられ、現在は国内外の地下水の生成年代や溶存物質の由来を、元素の同位体比により明らかにする研究に取り組んでいます。

「岩石は形成された時代や化学組成なども手に取って観察すればある程度分かる。でも水はどこから来たのか、どのような生成の歴史があるのか全く見えませ

ん。それを同位体という化学マーカーを使うことで知ることができる。見えないものを見ようとすることが、それを知るための仕組みを作ることが、楽しくて仕方ないんです」と、目を輝かせます。

マルチ同位体システムに立ち向かう

「水は岩石を語る上で不可欠な存在なんです。その成分は岩石にも含まれているし、水がないとマグマもできない。ちょうど水に着目した当時、国内では地質学・鉱物学の専門家が水に注目することも少なかった時代でした。もっと水に関する

高度な研究をしたいというジレンマはありましたね」。

その後、鉱山研究の先進である秋田大学へ赴任し、一度は水研究の道を諦めた細野さん。しかし夢を捨て切れず、2年前に熊本大学の水文学（すいもんがく）研究室へ飛び込みました。「安定よりも迷わず研究！それからの毎日は本当に楽しくてしょうがない」と、笑顔がこぼれます。

「今一番力を入れて立ち上げているのが『マルチ同位体測定システム』。窒素、硫黄、炭素などの同位体を測る機械で、陰イオンの全てを測ることが出来るシステムを有するラボは、熊大だけ。このシステムを使った先進の地下水研究は、未知への挑戦。ワクワクしますよ」。

研究とは 楽しんで生きるための原動力



Profile:

信州大学理学部地質科学科卒業後、筑波大学地球科学研究科博士課程修了。早稲田大学、総合地球環境学研究所などの研究員を経て秋田大学工学資源学部地球資源学科助教へ。2009年より現職。国内外の調査フィールドを舞台に水研究を展開。35歳

今年2月にはカメルーンへ。アフリカ第二の高さを誇るカメルーン山に登り、標高1000メートルを超えるジャングルで、湧水の源流を探して歩き回りました。「おそらくきちんと調べれば、世界的に注目を集めるようなフィールドになる可能性がある。そんな場所を調査し新たな発見があると、最高ですね」と細野さん。

かつての鉱物少年は今、水研究のトップを目指して走り続けています。



カメルーンでの採水は、ジャングルの奥深く道なき道に行く。湧水の源流を発見すると、仲間たちから歓声が巻き起こった



学生時代に海外を渡り歩いた足跡とその面影が残る書棚。「怖いもの知らずでしたからね」と細野さんは当時を振り返る

The Challenge
of the Young
Researchers
who make the shining future.

No.2

タンパク質の構造に向き合い 創薬に結びつく成果を

大学院生命科学研究部 機能分子構造解析学分野 研究員

池鯉鮒 麻美さん



常に目指すものは一番手

「疾患に関わっているタンパク質の構造が分かれば、薬をつくる上で大きな手掛かりになるはずですよ」。

池鯉鮒さんは、タンパク質の立体構造を原子レベルで決定するX線結晶構造解析に取り組んでいます。大腸菌などからタンパク質を取り出し、それを精製して結晶を作る。そこから得られたデータを解析し、タンパク質の構造を明らかにするのが一連の流れです。

実験の中でもタンパク質をうまく調製するのは最初の難関で、タンパク質によつては数年かかることも。さらに数十リットルの溶液から1ミリグラム程度しか取れないことも珍しくありません。「約3年かかって調製したタンパク質の

結晶を顕微鏡で見たときはうれしかったですね」と当時を振り返ります。このタンパク質の構造を明らかにするには、さらに2年を要しました。

しかし、研究者にとって勝負はこれから。論文と向き合う一方でアンテナは世界中にいるライバルたちへ向けられます。「研究にとって、二番手はあり得ないんです。一番でなくては意味がない」と語る心の内は自分との戦い。「もうすぐ論文が完成するというとき、先を越されそうになったんですよ。免疫学専門誌『Nature Immunology』に掲載されたときは、先生方に『長かったね。大変だったね』とねぎらっていただき、本当にうれしかったですね」と語る池鯉鮒さんは、満ち足りた表情に包まれていました。

創薬を通して社会貢献を目指す

研究室に入った頃は、初めてのことでかなりで試行錯誤の連続でした。その分失敗も多くの経験し、そこから教訓を得てきたという池鯉鮒さん。「研究は一人で

人がやったことがないことをやってみよう



Profile:
福山大学工学部より、熊本大学大学院薬学研究所の博士前期課程へ入学。学位取得後、研究室の中心となって活躍。海外への短期留学のほか、2007年雑誌[nature immunology]の筆頭著者としても論文を書いた実績を持つ

はできません。山縣教授、池水准教授をはじめ、助けていただいた全ての方に感謝し、いろんな研究者とつながりを持つことを大切にしていきたいですね」。

昨年、熊本大学イノベーション推進機構に所属している時には、イギリスのオックスフォード大学付属病院の研究所で3カ月間のインターンシップを経験。実験に専念できる完璧な環境と、研究者のレベルの高さにカルチャーショックを受けました。「大学で研究しているからには、いつか社会に貢献したいという気持ちがあります。何年先になるかわかりませんが、創薬に結びつく成果を上げたい」と抱負を語る池鯉鮒さん。その可能性を求めて学生に交じり、実験に没頭する日々が続きます。



研究室のメンバーが開いてくれた帰国前のお別れ会にて。他の研究室で実験している人も含めて全員が集まってくれた。

The Challenge of the Young Researchers who make the shining Future.

No.3

人命に関わる責務 実践できる災害対策へ

大学院自然科学研究科 環境共生工学専攻 社会環境マネジメント講座 助教

藤見 俊夫さん

社会と自分の可能性を広げること



Profile:
高校時代から砂漠の緑化など、環境問題に興味があり、京都大学農学部生産環境科学科卒業後、同大学農学研究所地域環境科学修了。京都大学防災研究所で防災リスクについて研究を続け、2006年より現職。36歳

経済学に心理学の知見を反映させる行動経済学の観点から、災害のリスクマネジメントについての研究をする藤見さん。「災害は、まれにしか起こらないし、社会経済現象に関しては実験もできないためデータが少ないんですよ。しかし、社会的ニーズは高いというジレンマもありますね」。

予防も含めて最悪な事態を想定しつつ、

現実に実践できるような災害対策を構築することの難しさ、をどう乗り越えるか。人命にも関わる大きな問題だけに壁

に直面することも少なくありません。

災害対策には一般家庭の協力も不可欠。「例えば電化製品の5年間保証など、実際は5年の間に修理をする確率は非常に低いにもかかわらず、多めにお金を払ってでも安心を求める傾向にあります。このような人間の意思決定時における、心の癖」を、耐震改修の勧め方などに生かして災害対策に活用できるようにする方法についても研究をしています」。

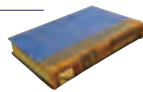
東日本大震災後に、研究に対する意識も変わりました。「想定外の災害が起きても深刻な被害にならないような、社会の仕組みづくりの必要性を実感しています。研究が社会の明るい可能性を生み、同時に自分の進歩につながるまで休まず進み続けたいですね」と語ります。



自分と対峙しながら 導く法の理論

法学部 准教授

濱崎 録さん



誰もが身近
にありながら、
向き合うこと
の少ない民事
裁判。濱崎さ

保有する証拠や情報アクセスに違いがあ
るケースも少なくありません。『平等と
は何か？それを理論で乗り越えるにはど
うしたらよいか』が最大のテーマです』。
論文を書くときが一番の勝負という濱
崎さん。「研究を文章にまとめようとす
ると、おのずと自分が分かっていないこ
とに向き合わなければならぬ。自分の
勉強不足や力不足に対峙しながら、納得
がいくまで書きあげる作業はつらいです
ね。まさに自分自身への挑戦です」。

どを研究しています。
大学時代に「民事裁判における実質的
平等とはどういふことだろう」と疑問を持
ち、研究者への道を選びました。「法曹と
いう選択肢もありましたが、自分で考え、
それを広く伝える仕事をしたかったんです。
法は当事者を公平に扱わなければならない
と定めている一方で、企業対私人などは、

民事訴訟の中でも証拠法にとどまらず、
強制執行に関わる執行法や家庭に関する
人事訴訟法など、幅広いテーマで研究を
続けたいと、その視線は常に未来を見据
えながら自分との戦いは続きます。

自分が理解ついでなことに
向き合う勇氣



Profile:

熊本大学大学院法学研究科
修了後、九州大学大学院法
学研究科を経て、香川大学
法学部講師に。その後、同大
学法学部准教授、2009年より
現職

疾病の治療や 予防に貢献したい

大学院生命科学部 分子遺伝学分野 助教

門松 毅さん



わからないうちから、
面白く！



Profile:

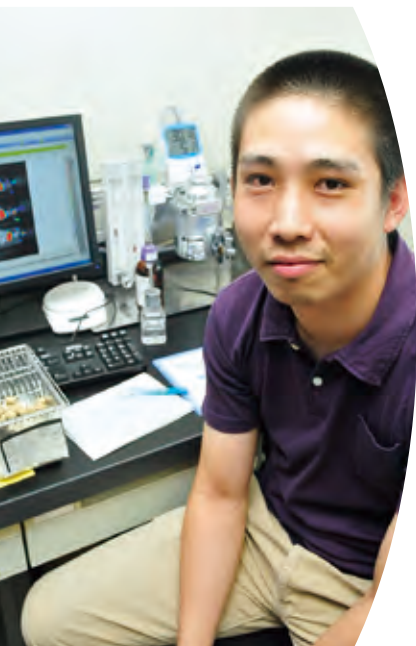
熊本大学理学部から熊本大
学大学院医学教育部を修了
後、医学薬学研究部研究員
へ。2011年より現職。最先端
次世代開発研究プログラム
(ライフ・イノベーション)に採
択される課題「生活習慣病と
がんの共通分子病態解明と
による健康長寿社会実現を
目指した基盤研究」に取り組
んでいる。30歳

メタボリックシンドロームを引き起こ
す原因タンパク「アンジオポエチン様タ
ンパク質2」(以下 Angp12)の研究に
取り組む門松さん。「『Angp12』研究で
世界をリードする熊大でその働きを解明
し、疾病の治療や予防に貢献したい」と
目を輝かせます。

「Angp12」の発現を抑えることで、糖
尿病や動脈硬化性疾患などを防ぐこと
ができるかと考
えられますが、
その発現や作
用メカニズム
についてはま
だよく分かっ
ていません。
「この研究の
先駆けとして

「Angp12」の発現および作用メカニズ
ムを解明し、将来的にメタボリックシン
ドロームや動脈硬化性疾患などを防ぐ治
療法の開発にもつなげたい。苦しんで試
行錯誤した末に、新しいことを発見した
時の快感が研究者の醍醐味(だいごみ)。
だから挑戦できるんです」と語ります。

子どものころから理科が大好きだった
という門松さんは、熊大理学部に進学し、
イモリの精原細胞のアポトーシス(細胞
死)についての研究を重ねました。「研
究をすればするほど、まだ解明されてい
ないことがたくさんあることを知り、ワ
クワクワしていました」という根っからの
研究者。「研究は、私のライフワーク。
現役の学生たちも受け身にならず、興味
のあるテーマに出合ったら積極的に研究
を続けてほしい」とエールを送ります。



The Challenge
of the Young
Researchers
who make the string Future.

若手研究者への メッセージ

基礎研究の 可能性は ∞無限大 世界へ通用する 研究者へ



工学部百周年記念館で行われた
KEYフォーラムで発表する山中教授

世界の未来を担う若手研究者にとって、
今をどう過ごすかは、大きな課題の
一つ。去る9月9日に「KEYフォー
ラム」発生生物学と再生医療」で来
学した京都大学教授・山中伸弥氏を
訪ね、熊本大学で切磋琢磨（せっさ
たくま）する研究者の皆さんへの
メッセージをいただきました。

熊本大学発生医学研究所の客員教授と
して、熊本に縁ができたことを大変うれ
しく思っています。私がまだ学生のころ、
ラグビーをやっていたんですが、試合で
熊本大学に負けてしまった思い出があり
ます。今では懐かしい、いい思い出です。
ずっと昔から良きライバルとして、熊本
大学は私にとって特別な存在なんです。
今回参加した「KEYフォーラム」で
は、国内外で活躍されている一流の先生
方が熊本大学へ集い、多くの若手研究者
との交流も生まれました。これからの研
究を担う皆さんには、いい経験になった

京都大学 教授
熊本大学発生医学研究所 客員教授
Shinya YAMANAKA
山中 伸弥氏

Profile:

2006年、ES細胞のように分化多能性を持つマウス人工多能性幹細胞（iPS細胞：induced pluripotent stem cell）を確立。さらに、人間の大人の皮膚に4種類の遺伝子を導入し、ES細胞に似たヒトiPS細胞を生成する技術を開発し、世界的な評価を受ける。2009年ラスカー賞およびガードナー国際賞、2010年恩賜賞・日本学士院賞・文化功労者顕彰・京都賞などを受賞。2011年ウルフ賞受賞

のではないのでしょうか。

若手研究者には、今のうちにしかできないことをしっかりとやってほしいですね。外国に行ったり、英語を学んだりすることも大切ですが、若手のうちにしかできない失敗もありますから、結果を恐れずにいろんな難しいことにチャレンジしてほしいですね。元氣な熊本の若者らしく志を高く持つて、小さくまとまらない研究者を目指してください。

再生医療への応用が期待されるiPS細胞研究では、日本はオールジャパン体制での研究に取り組んでいます。今こそ世界に通用する若手研究者が求められる時代。基礎研究の可能性は無限大です。世界を目指して頑張ってください。



「KEYフォーラム」開催後、山中教授（前列右から3人目）と主催者・桑教授（前列右から4人目）を囲んで記念撮影。若手研究者たちから笑顔がこぼれた。

研究室探訪

Laboratory Exploration

赤池孝章研究室

大学院
生命科学研究所医学系

微生物分野

活性酸素の新たなシグナル伝達メカニズムに迫る

「学問において真実の一つではない。医学者として研究を極めれば、世界一になれる」という赤池教授の言葉をモットーに、日々研究に励む研究室の皆さん。病気は、病原体をはじめとするさまざまな外的因子に対する人間の防御反応が破たんして起こるもの。その防御機構をつかさどる体内の分子を解明し、病気の早期発見や予防・治療に役立てるための基礎研究を行っています。

「生物学者は、常に謙虚であるべき。体の中にできるものはすべて必要なもので、善玉も悪玉もありません」と語る赤池教授。これまで悪玉とされてきた活性酸素が生体内で特異的なシグナル経路を活性化し、細胞保護、細胞分化増殖、細胞死の制御などをつかさどることを研究しています。2007年には、血管拡張などの働きを持つ体内物質「cGMP(※1)」が一酸化窒素(NO)と結び付くと、「8-ニトロcGMP(※2)」という有機化合物が生み出されることを世界で初めて発見し、科学誌「nature chemical biology」などで発表されました。さらに「8-ニトロcGMP」が細胞内のアミノ酸の一種であるシステインと結合すると、ガンや動脈硬化、老化の原因といわれる活性酸素を除去する酵素をたくさん作り出すことも解明。赤池教授は「8-ニトロcGMPを研究することは、一酸化窒素が生体内でどのような働きをしているのかを解き明かすカギを握っています」と話します。

最先端の研究がやる気を生む

“赤池研究室の魅力は、世界とつながっていること”と口をそろえる学生の皆さん。「他大学との共同研究の機会も多く、最先端の研究に触れる醍醐味が学習意欲を高めてくれます」と、研究員の井上博文さんは語ります。また、「教授のかじ取りで、時代の先端をいく研究テーマにどんどん取り組めるところが魅力ですね」と研究員の吉武淳さん。

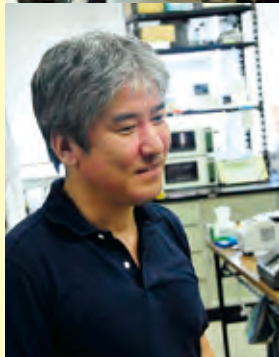
基礎研究を志す医学生の減少から、人材育成が課題と語る赤池教授。「当研究室は、医学だけでなく理工系の優秀な教員も全国から集まっており、学際的な学びを提供しています。これからも画的治療や疾病予防に結びつくような研究を続けていきたいですね」と語ります。

体内に宿る分子が持つさまざまな役割について基礎研究を行う赤池孝章研究室。

これまで有害物質とされてきた活性酸素が「生理的シグナル伝達機能」を持つという

新知見に焦点を当て、

活性酸素の機能と病態解明についての研究を重ね世界に発信しています。



↑ バングラデシュや韓国など海外からの留学生も多く、インターナショナルな雰囲気だ

← 質量分析やタンパク質の解析などを行い、アメリカのデータベースに送るなど、世界とリアルタイムでつながっている

⚡ 「学生が行き詰まった時は、すぐに答えを教えるのではなく、煮詰まり具合を見極めて、アドバイスを変えています」と語る澤智裕准教授

↓ 「8-ニトロcGMP」の研究が発表された「nature chemical biology」誌の表紙

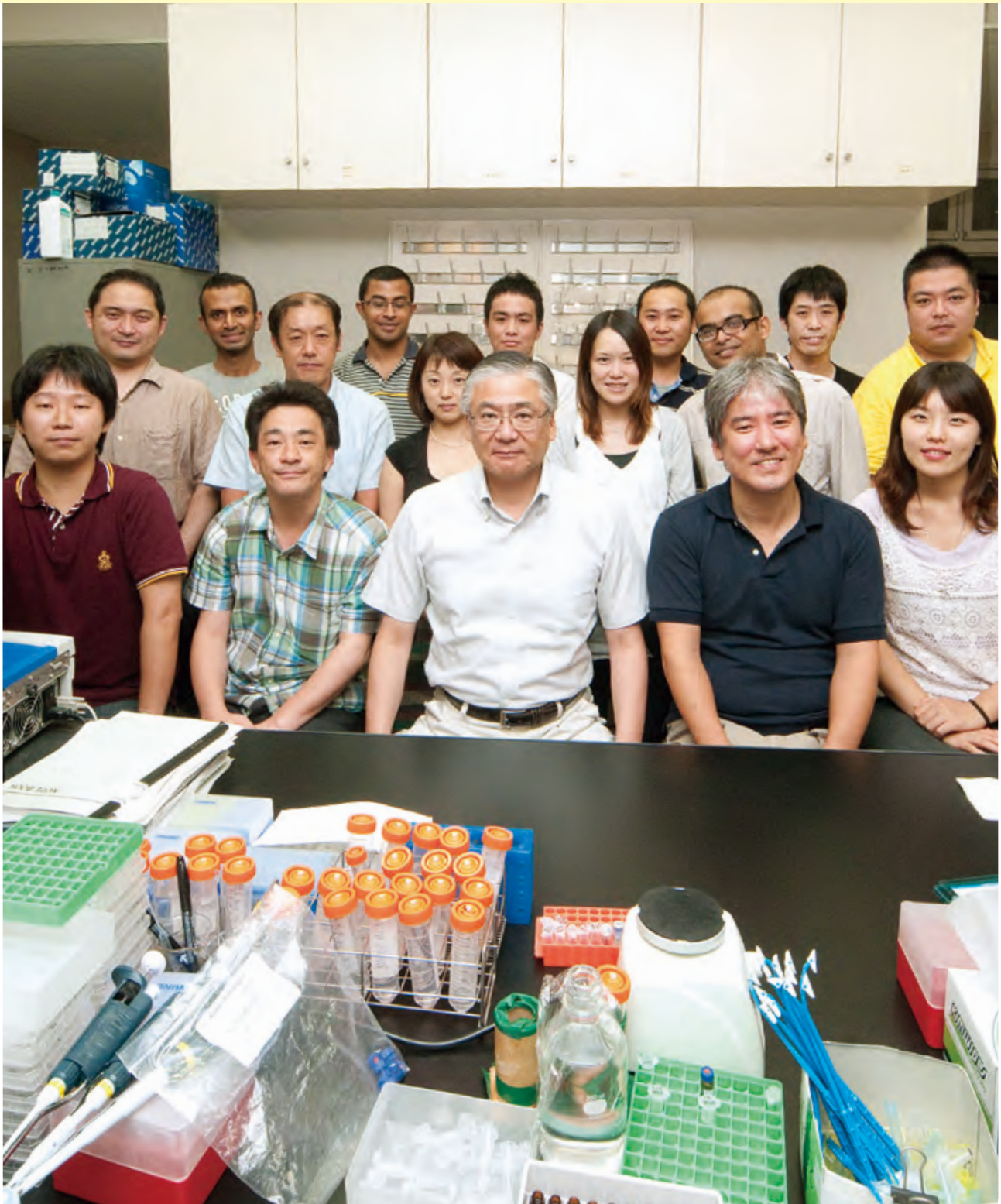


※1 cGMP…環状グアノシン1リン酸

※2 8-ニトロcGMP…8-ニトロ環状グアノシン1リン酸

世界とつながる研究で 未来の医療を支える

赤池研究室には、赤池教授(中央)、澤准教授(中央右)をはじめ、15人の研究員や学生が所属。感染症やガンの分子病態解析と活性酸素の機能制御などに関して研究している





TOPICS

漱石先生に合格祈願

「夏目漱石像と握手すると合格する」というジンクスがあるとか。来学者の中には、わざわざ握手しに来る人も。



大江キャンパス



宮本佳博氏の遺志によって建築された「宮本記念館」は国際学術交流やコンベンションの場として活用されている。

薬学部では高校生たちを案内するキャンパスツアーを実施。活発に質問が飛びかった。

薬学部



模擬講義の入场希望者が多く、教室の後部には多くの高校生の立ち見姿がみられた。

Welcome!

熊大オープンキャンパス

2011年8月10日、熊大オープンキャンパスでは、黒髪、本荘・九品寺、大江の三つのキャンパスで、各学部の趣向を凝らした模擬講義や研究室公開などが開催されました。今年の動員数は、10,334人！訪れた高校生たちが、最新の研究やさまざまな教育環境に触れ、未来に向けて思いを新たにした感動の一日を誌面に再現！「熊大通信版オープンキャンパス」へようこそ！

本荘・九品寺キャンパス



医学部医学科

医学部附属病院

山崎記念館

生命資源研究支援センター

エイズ学
研究センター

発生医学
研究所

医学部医学科

普段は見ることができない医学総合研究棟を見学。また説明会会場では高校生たちによる質疑応答などが繰り広げられた。



山崎記念館 (旧熊本医科大学図書館)
「旧熊本医科大学図書館」は、国指定登録有形文化財。近代日本を代表する建築家の一人・武田 五一の設計で、外壁のフォルムにその意匠が光る。

医学部保健学科

看護学、放射線技術科学、検査技術科学など医学部保健学科の専門教育の現場を模擬講義などで体験。



黒髪キャンパス

本荘・九品寺キャンパス

大江キャンパス

熊大面白かった～！



高校生の声



石原孝浩さん(熊本県立鹿本高校1年)
大学って自由。来年も再来年も来れるのは僕にとってチャンス。考古学を勉強したいです。

小西晃平さん(大分県立日田高校2年)
熊大って面白い！学部選びや受験の意義を含めて考えることが大切だと思いました。



武石さん

小西さん

日隈さん

小山さん

小山明希さん(大分県立日田高校2年)
熊大を受験しようと思っていたのはいいけど、来年後悔しないように考えたい。

日隈裕さん(大分県立日田高校2年)
研究室公開で聞いた先輩たちの説明や意見が、生き生きして面白かった。

黒髪キャンパス

教育学部

小学校教員・中学校教員などの各養成課程をはじめとする学部紹介などの説明会を開催。研究室公開では教育に向き合う先輩たちの話に耳を傾けた。



学生会館

学生団体「Linkuma」考案のオリジナルエコバッグなど、熊大グッズが盛りだくさん!



赤門

通称「赤門」は熊大の正門。国の重要文化財に指定されている。

工学部



工学部百周年記念館

「工学部百周年記念館」では、建築学教室の総合展示。各研究室の研究テーマや作品、学生による設計作品などを見学。

工学部研究資料館

「旧機械実験工場」では、動態保存されている工作機械群を見学。日本機械学会が推奨する機械遺産の認定を受けている。



政策創造研究教育センター
イノベーション推進機構

熊本県地域結集型
研究開発プログラム
コア研究室

工学部研究資料館

工学部百周年記念館

工学部

バイオエレクトロニクス
研究センター

食堂 FORICO 南地区食堂

FORICO

黒髪南キャンパスのカフェ & レストラン「FORICO」(フォリコ)。焼き立てのパンもそろうスタイリッシュな学食だ。



先輩の声

街の見方も変える
建築の魅力伝えたい

前野 仁義(工学部建築学科4年)



文学部



総合人間学科・歴史学科・文学科・コミュニケーション情報学科それぞれに模擬講義を開催。貴重な古文書や出土資料も公開された。



法学部

午前には模擬講義を開催。午後には法学部教員による模擬実習が開かれ、10人程度の少人数クラスに分かれて、大学のゼミを体験しました。

五高記念館

熊大のシンボル「五高記念館」。旧制第五高等学校の赤レンガの本館には、今も当時の面影が色濃く残されている。



理学部



各分野それぞれに興味深い演示実験の数々を公開。数学・物理・化学・地球環境科学・生物科学などの研究を体験。

工学部



工学部全学科の研究室を公開。女子高生のための進路相談会、理数学生応援プログラム説明会なども開催された。

西原 雅子さん(福岡県立三池高校3年)
先輩たちはキレイな人やカッコいい人が多いですね。緑が多くてキャンパスが広い!



太田 藍さん(福岡県立三池高校3年)
熊大が第一志望。幅広く勉強ができる文学部総合人間学科に行きたい! 絶対合格します。

遣水 季菜さん(福岡県立朝倉高校2年)
いろんな研究室を訪問して、大学生の皆さんとたくさんお話できたのがよかった。好きなことに夢中になれるような場所であってほしい。そしてそういう大学に行きたい。
〈季菜さんのお母さんより〉
堅苦しい大学だと思っていたら、とても自由で和気あいあい。緑も多くて環境がとてもいいですね。



日米の英語教育の良さを融合し 世界の舞台で教えたい!

大学院教育学研究科 教科教育実践専攻言語系教育専修
英語学コース1年 上川みゆきさん

2009年8月から翌年5月まで交換留学生として、
カリフォルニア州に留学した上川みゆきさん。
生きた英語を身に付けることで、
将来、英語教育に役立てたいと目を輝かせます。

小学生のころ、3年間スイスで暮らしていたこともあり、世界の共通言語である英語に興味を持ちました。熊本大学で学ぶ中で、生きた英語を身に付けたいという思いが強まり、カリフォルニア州のパシフィック大学に10カ月間留学しました。カリフォルニア州は、アジア系やヒスパニック系などさまざまな人種の人たちが住んでいることから、英語教育が盛んです。アメリカでは机上での勉強に加え、歌を使ったり、体を動かしながらの英語教育法が主流で、とても勉強になりました。私も現地の学生さんたちを相手に模擬授業を行う機会に恵まれました。



パシフィック大学の仲間たちとサプライズパーティーも楽しんだという上川さん。
一番頑張ったのは「オバマ大統領のスピーチの分析」だとか

日本の学習指導案を英語に訳し授業を行ったのですが、先の見通しをきっちり立てて、やりたいことを分刻みで盛り込んだので「みゆきの授業は緻密で、とても新鮮!」と、クラスメートに言われてうれしかったですね。

現在は、さらに生きた英語を学びたいという思いから、インターネットで使われる英語の省略表現についての研究をしています。日本にも若者言葉があるように、英語にもインターネット上で使われる独特の省略表現があるんです。英語は、シンガポールやインドなど、それぞれの国で独自の使い方が生まれ、適応していった生きた言語です。今は目新しい省略表現でも、月日が経つうちにスタンダードな表現として定着する日がくるのかもしれない。

将来は、アメリカと熊本大学で学んだ英語教育のよいところを融合し、東南アジアなども視野に入れて、英語に携わる仕事ができるばいいなと思っています。



海外も視野に入れ、英語教育の現場に立つことを目指している



6 / 9

2011年度シリーズ留学説明会「留学のススメ!」海外協定校へ留学しよう(第2回)を開催

14

平成23年度前期TOEFL講座を開催
交流協定校への交換留学等、本学学生の海外派遣を推進し、留学準備のための英語力向上を目的としており、受講者は22名でした。

7 / 1

日韓共同理工系学部留学生事業協議会
日韓政府間の合意に基づく韓国入学生受入事業実施校の協議会を、熊本大学が当番校となり開催しました。
大韓民国国立国際教育院、慶熙大学国際教育院、文部科学省および全国の34大学からあわせて81名が参加しました。

2

英語教育セミナー「自律学習と教室学習を通じた学習力養成」を開催
大学院社会文化科学研究科の主催で、小椋梓氏(広島大学教女子大学)を招き英語教育をテーマにセミナーを開催しました。教員、学生一般参加合わせて約30名が参加しました。(日本学術振興会科学研究費補助金(課題番号22320107))

5

熊本大学サマープログラム
2011を実施
(7月15日まで)
中国、台湾、韓国の協定校に在籍し、日本語学習経験のある学部学生を対象としたサマープログラムを実施。39名が参加しました。学内から80名以上の学生が



アメリカ

世界から熊本大学へ

熊大のアカデミックな雰囲気 大好きです!

法学部1年 徐 子杰さん

中国広東省から熊本大学へ留学し、
法律を学ぶ徐 子杰さん。
将来は中国と日本を結ぶ
貿易の仕事をしたいと語ります。



広東省の高校を卒業後、熊本の語学専門
門学校で2年間日本語を学び、現在熊本
大学法学部の1年生として在学していま
す。法学部を選んだ理由は、ホームペー
ジに「考える力が身に付く」と書いて
あったことや、父親が日本企業向けの貿
易の仕事をしているので、会社法や取引
法を学びたいと思ったからです。実際勉
強を始めてみると、専門用語や文化の違
いなど戸惑うこともありましたが、日本の
法律は人権に配慮した素晴らしい法律だ
なと感じています。

部活は水泳部に入り、月曜から金曜ま
で毎朝6時半から練習しています。背泳



毎日、図書館で日経新聞を読み、経済動向をチェックするという徐さん。
「熊本で初めて雪を見て、感動しました」








日本語学校通学当時の徐さん。その後「日本語能力試験」を受け、最高レベルのN1に合格し、大学生活でも堪能な日本語でコミュニケーションを楽しんでいる

が得意なのですが、先輩や仲間たちと
共に泳いでいると、体を動かし楽しむ気
持ちに国境はないんだと感じますね。

土・日曜は、物流関係の会社でアルバ
イトをしています。私にとってみれば、
調味料の名前や日本でのようなものが新
鮮でとても勉強になります。学校の勉
強だけでなく社会での経験が、ビジネ
スの大きなヒントとなるような気がしま
すね。

熊本大学は人も親切だし、アカデミッ
クな雰囲気で勉強するにはもってこいの
環境です。東日本大震災後は、東京から
九州へと本社機能を移す企業が増えてい
ると新聞で読みました。そういう意味で
も、中国と九州の交流は今後ますます盛
んになるのではないのでしょうか。この地
で学ぶことにあらためて深い意味を感じ
ています。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| <p>28</p> <p>平成23年度日韓
共同理工系学部
留学生事業フェ
ア(ウール)
筆記試験に合格
した150名の
韓国大学生に日
本側の受入大学37校が情報提供を行
うフェアを開催しました。熊本大学は
当番校としてフェア運営を行いました。</p>  | <p>11</p> <p>工学部附属革新
ものづくり教育
センターの主催
で、「国際連携も
のつくりコンテ
スト」を韓国釜
山市東亜大学で
開催(8月20
日まで)。
本学から工学部学生32名が参加しま
した。</p>  | <p>8
/
5</p> <p>平成23年度前期
国際化推進セン
ター日本語研修
コース修了式お
よび熊本大学短
期留学コース・
日本語日本文化
研修プログラム
閉講式
日本語研修コース研修生4名、短期
留学コース短期留学生48名が修了し
ました。</p>  | <p>22</p> <p>2011シリーズ留学説明会(第3
回)を開催</p> <p>平成23年度前期
国際化推進セン
ター日本語研修
コース修了式お
よび熊本大学短
期留学コース・
日本語日本文化
研修プログラム
閉講式
日本語研修コース研修生4名、短期
留学コース短期留学生48名が修了し
ました。</p>  | <p>6</p> <p>アルバータ大学
(カナダ)来学
Faculty Campbell
学部長ほか2名
が本学を表敬訪
問しました。</p>  |
|---|---|---|---|---|

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して
精勵するその姿をご紹介します。



吉村 誠 Makoto YOSHIMURA

国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所 勤務
工学部電気情報工学科・平成7年度卒



熊本県内の河川・道路を管理するための電気・通信・情報分野のシステム整備や管理運用を担当しています。災害発生時には、TEC-FORCE (Technical Emergency Control Force: 緊急災害対策派遣隊) 隊員として災害現場へ赴くこともあり、東日本大震災では、岩手県へ派遣されました。地域住民の方々の生活に密着した仕事であり、大変やりがいを感じています。学生時代はいろんなことにチャレンジして、自分の世界を広げるチャンスです。そこでの出会いは財産になります。自分にとって“これだ”というものをぜひ見つけてください。



原 慧美香 Emika HARA

熊本市立城山小学校 勤務
教育学部小学校教員養成課程・平成19年度卒 / 大学院教育学研究科教科教育専攻・平成21年度修了



現在は4年生のクラスを担当しながら、日々、子どもたちの成長を、目で、耳で、心で喜びを感じています。在学中、「子どもたちの側からの学びをどのように起こしたらいいのか」と、夜遅くまで研修室の仲間と語り合いました。「自ら学び続ける」姿勢を持って、子どもたちから、そして現場の先生方から学ばせていただいたことが、今の私の土台となっています。卒業した今も、研究室で学んだこと、そして学び合った仲間が何よりも心の支えです。皆さんも、学生のうちに積極的にいろんなことに触れ、さまざまな人と出会い、そのつながりを大切にしてほしいと思います。努力すれば、道は開けると信じて、頑張ってください。



藤島 弘併 Kohei FUJISHIMA

株式会社安川電機(北九州) 勤務
法学部法学科・平成20年度卒



現在私は、工場の総務として、人事関係(異動・給与計算など)・安全関係・社内行事関係など全般の仕事に携わっています。大学時代は、先生方・職員の皆さま含めて自分がやりたいことを温かく見守っていただける環境にあったと感じています。熊大は、自分の夢を実現できる土壤を持った場所です。そのような土壤があったからこそ恐れずに行動に移し、たくさんのイベントを企画し、実行することができたのだと感謝しています。「想い」は行動しないと実現しません。大学は、そのステップとなる場所です。まずは、「考動」してください。きっと自分の新しい未来への扉が開くはずですよ。



大森 浩史 Hirofumi OMORI



西日本電信電話株式会社(熊本)勤務
文学部史学科文化史学コース・平成4年度卒

現職(熊本支店副支店長・法人営業本部長)では主に企業に対して、プライベートネットワークなどシステムの導入提案を行い、コスト削減や作業効率化などお客さまが抱える課題の解決をお手伝いしています。大学では「一方的な情報に安易に流されず、現状を正しく把握することの必要性・重要性」を学びました。さまざまな情報が氾濫している世の中、曖昧な情報に踊らされることなく、情報を見極め、多面的な分析に基づき方向性を見出す基本動作が極めて重要です。自らが仕掛ける心意気・取り組みの先には「面白い」が見つかるとともに、未来が開けます。まずは“素直にチャレンジ”すること。私もまだまだたくさんのことに素直にチャレンジ中です。ぜひお互いの「面白い」を情報交換しましょう。

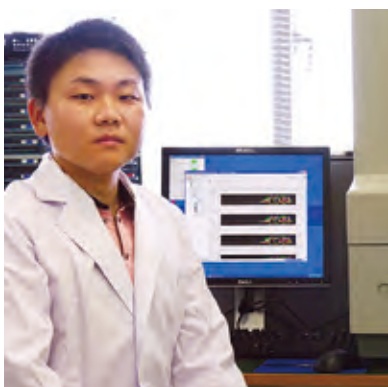


緒方 さつき Satsuki OGATA



医師
医学部医学科・平成17年度卒

熊本大学医学部を卒業後、現在は勤務医として、主に一般外科・小児外科の診療に携わっております。医学部の授業では、疾患についての専門的な知識の他、特に臨床実習において、病气や患者に真摯に向き合う姿勢を学びました。ともに切磋琢磨した仲間は今でも良き相談相手であり、ライバルでもあります。熊本大学の良いところは、学生の自主性を重んじてくれるところです。その結果として、学生生活では後悔や反省すべきところも多々ありましたが、それら全てが今の自分を形作ってくれているのだと、感謝しております。



小野 孝明 Takaaki ONO



大分県警察本部刑事部科学捜査研究所 勤務
薬学部薬科学科・平成12年度卒

私は、大分県警察科学捜査研究所で、主に事件現場に犯人が遺留した資料のDNA型鑑定を担当しています。犯行の裏付けとなる客観的証拠の存在を科学の力で明らかにするという“科捜研”の仕事は責任があり大変ですが、学生時代の研究や実習の経験が生かせ、やりがいがあります。また、苦労の末に導き出した鑑定結果が事件解決への役割を果たすことができ、新聞などで報道されたときには大きな達成感を得ることができます。学生時代は自由に使える時間がたくさんあります。勉強でも遊びでも、何か興味のあるものに積極的にチャレンジし、楽しみながらいろいろな経験を積んでください。



松村 浩史 Hirofumi MATSUMURA



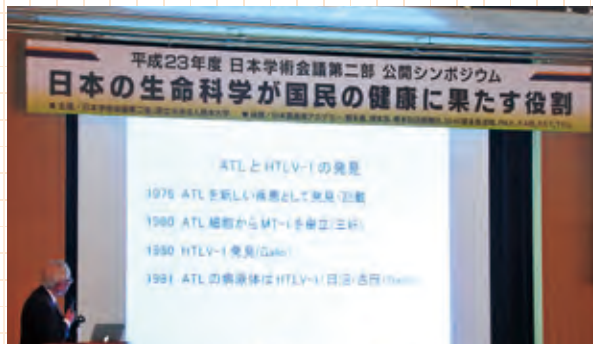
一般財団法人 化学及血清療法研究所(熊本)勤務
理学部理学科・平成22年度卒

現在、血漿分画製剤の一つである生体組織接着剤の製造業務に携わっています。入所1年目の新人ですが、同じ品質の製剤を安定的に製造・供給することの難しさを日々感じています。在学中は野球サークルでの活動を通してたくさんの仲間と出会いました。また、研究室では遺伝子工学や分子生物学を専攻しており、細胞レベルでの生命の神秘さ・面白さを学びました。熊大でさまざまな経験ができたことは今でも大きな財産です。在学生の皆さん、大学時代にしかできない経験を大切にしてください。そして、自分の可能性を自分で決めつけることなく、幅広い視点を持って道を切り開いていってください。

⇒ 平成23年度日本学術会議と本学との共催により公開シンポジウムを開催

8月27日(土)、「日本の生命科学が国民の健康に果たす役割」をテーマに、「くまもと県民交流館 パレア」で、日本学術会議第二部と本学との共催でシンポジウムを開催しました。地球温暖化やエネルギー危機、食糧危機、感染症と難病、環境破壊など、未来のあり方について解決すべき問題は山積みです。今回のシンポジウムでは、生命科学の各領域を代表する科学者が一堂に会し、日本という「足元」で「日本の生命科学」が「日本国民の健康」に果たすべき役割、そして世界が抱える難問への対応について、意見交換を行いました。ご参加いた

だいた多くの一般市民の方の中から、放射能汚染に関する質疑なども飛び出し、その関心の高さをうかがい知ることができました。



コーディネーターを務める
大学院生命科学研究所の
満屋 裕明教授

⇒ KEYフォーラム「発生生物学と再生医療」を開催



9月8日(木)、9日(金)に本学工学部百周年記念館にて、発生医学研究所および熊本大学グローバルCOEプログラム細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット主催によるKEYフォーラム「発生生物学と再生

医療」を開催しました。国際的に活躍される京都大学の山中伸弥教授をはじめ、慶応義塾大学や理化学研究所、台湾のアカデミアシニカなど国内外から著名な研究者が集まり、口頭発表およびポスター発表が行われました。活発な議論が交わされ、グローバルCOEプログラムの拠点リーダーである糸教授は、「たくさんの方の研究者の方に発表していただき、若手研究者にとっても良い機会になった」と語りました。



質疑応答では、会場から積極的
に質問が飛び交った。

⇒ 第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに参加しました



9月10日(土)、11日(日)、熊本学園大学で開催された「第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」に本学も参加しました。今回は「地域新時代における大学の社会貢献」が

メインテーマ。九州では初の開催で、全国から370名以上が参加されました。基調講演やシンポジウム、分科会、ポスターセッションが行われ、シンポジウムでは、高等教育コンソーシアム熊本の会長である本学の谷口学長が議長を務め「地域新時代における大学の社会貢献は、今まさに取り組むべき課題。将来のわが国を担う“人財”の育成のために、大学コンソーシアムの果たす役割が重要になってくる」と述べました。



開催のあいさつをする
谷口 功学長

⇒ 平成23年度熊本大学テレビ放送公開講座

本学で自らの研究と教育に情熱を傾ける女性研究者にスポットを当て、5回シリーズで5人の研究者をドキュメンタリーで紹介。最新の研究で日本の未来を担う彼女たちの生き方に迫ります。

日時／11月26日(土)

15:30～16:00

RKK熊本放送にて5週連続放送

(再放送は11月28日(月))

15:30～16:00 5週連続放送)

【問い合わせ】

政策創造研究教育センター

Tel. 096-342-2044

URL: <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>



木下尚子教授
文学部



岸田光代准教授
大学院自然科学研
究科



糸昭苑教授
発生医学研究所



八幡彩子准教授
教育学部



前田ひとみ教授
大学院生命科学研
究部

私はここで輝く。～熊大の女性プロフェッサーたち～

11月26日(土)からRKK熊本放送にて5週連続放送15:30～16:00

(再放送は11月28日(月)15:30～16:00 5週連続放送)

⇒ みなまた環境マイスター養成プログラム

みなまた環境塾

第13回イブニングセミナー

今回は、KAIST(韓国科学技術院)よりJoongmyeon Bae教授をお招きし、韓国におけるエネルギー・リサイクルの最新事情をお話いただきます。

日時／10月7日(金)18:00～

場所／みなまた環境テクノセンター
(水俣市浜松町5-98)

Tel.0966-62-0639)

講師／KAIST(韓国科学技術院)
Joongmyeon Bae教授

対象／水俣市および周辺地域市民

定員／30名程度

参加費／無料

東アジアヘルスプロモーション会議in水俣
(兼 みなまた環境塾第8回シンポジウム)

日時／11月25日(金)

場所／水俣市総合もやい直しセンター(予定)

みなまた環境塾国際シンポジウム
(MISSION2011)

本学、水俣市、みなまた環境塾の5年間の取り組みを発信するため、アジアを中心とした海外研究者の研究発表、国内NPO団体などの研究発表会です。熊本・水俣会場とも研究者との意見交換会も行います。

日時／12月6日(火)

13:00～ 講演会・研究発表会

18:00～ ウェルカムパーティー

場所／熊本交通センターホテル

日時／12月7日(水)

15:00～ 講演会・研究発表会

17:30～ 市民交流会

場所／水俣市総合もやい直しセンター
対象／環境・リサイクルなどに興味のある方ならどなたでも

参加費／無料

日程などの詳細は

みなまた環境塾HP: <http://ecomot.org/>

【問い合わせ】

自然科学系事務ユニット研究支援担当 前田

Tel.096-342-3519



数字でわかる 熊本大学 #06

熊本大学の2010年度知的財産活用実績

活用件数13件

ライセンスなどの収入1,222万円!

「知的財産」とは、研究者たちが現在まで積み上げてきた研究と、さらにそこから生まれていく知的創造物であり、財産として価値あるものことです。「特許権及び特許を受ける権利」や「意匠権及び意匠登録を受ける権利」「商標権及び商標登録を受ける権利」「著作権」などがあり、そのほかにも技術情報やそのノウハウも知的財産に含まれます。

本学の2010年度の知的財産の活用実績は13件あり、ライセンスなどの収入は1,222万円。こうした熊本大学の知的財産を管理運営し、有効活用するのが「熊本大学イノベーション推進機構(KICO)」です。大学で行われている全ての研究・実績を把握し、企業や団体などが持つ課題を解決したり、研究者に対して提案を呼び掛けるなど、外部とのパイプ役を担い、広く社会へ知的財産を還元しています。熊本大学が育ててきた“知の種”は、地域活性化や経済効果などに大きな影響力を持つ“国の宝”なのです。

研究成果の実用化で技術移転

未来を拓く “知の種”

知的財産の活用(実施)実績

(千円)



提供:熊本大学イノベーション推進機構より

➔ 熊本大学水循環CRESTシンポジウム
『地下水帯水層中の硝酸性窒素汚染に如何に対処できるか?』



国内外各地で大きな問題となっている地下水の硝酸性窒素汚染に注目をして、その現状と対応策、今後の課題を国内からの専門家による講演と総合討論を通して模索します。

日 時／10月23日(日)

10:00～16:00(予定)

場 所／工学部百周年記念館

対 象／地下水に関心のある一般市民、
技術者、研究者

参加費／無料 ※事前申込不要

【問い合わせ】

理学部地球環境科学講座 一柳

Tel.096-342-3418

➔ 大学院社会文化科学研究科公開授業
映画『海霊の宮―石牟礼道子の世界―』に学ぶ

石牟礼の原点である不知火海・水俣の映像作品に学びます。

講 義／渡辺京二(大学院社会文化科学研究科 客員教授)
金 大偉(映画監督)

日 時／10月8日(土)13:30～15:30
(13:00開場)

場 所／工学部百周年記念館

定 員／250名(入場無料、予約不要)

【問い合わせ】

大学院社会文化科学研究科

社会人大学院教育支援センター

Tel.096-342-2390

➔ 女子中高生理系進路選択支援事業
「聞いてみんなね、見つけんね! 理系の女性ロールモデル」



昨年度に引き続き女子中高生理系進路選択支援事業「サイエンス・プロジェクト for 九州ガールズ」を企画。

第1回は理系(理学部、工学部、薬学部、理学療法)の女性研究者による講話、第2回は理系の学部生や大学院生

による研究活動の紹介を予定しています。

日 時／第1回講演会 10月22日(土)
第2回講演会 11月12日(土)
両日とも13:30より受付

対 象／女子中学生・女子高校生およびその保護者、教諭

事前申込／要申込。ファクスにてお申し込みください。(案内チラシを各学校宛に送付)

参加費／無料

【問い合わせ】

大学院生命科学部保健学系

事務室 総務担当 Tel.096-373-5452

➔ 第28回熊本大学附属図書館貴重資料展
「永青文庫資料にみる 肥後の街道とその景観」



熊本大学附属図書館に寄託されている6万点を超える永青文庫資料の中から、肥後国全域を描いた国絵図や巡見使がたどった道筋と景観を描いた街道図を中心に、当時の街の様子を表した絵図25点を公開。全長17メートルにも及ぶ3つの街道図は、現在の荒尾市から熊本を通り水俣から薩摩国へと巡ります。さまざまな視点から描かれた古絵図の技法も見どころの一つ。

日 時／<展示会>10月29日(土)～
31日(月)9:30～16:30

<公開講演会>10月29日(土)

14:00～15:30

場 所／<展示会>熊本大学附属図書館
自由閲覧室

<公開講演会>放送大学熊本
学習センター講義室

対 象／一般、学生、教職員

参加費／無料 ※事前申込不要

【問い合わせ】

熊本大学附属図書館

Tel.096-342-2212

➔ 薬用資源エコフロンティアセンター
月例薬用植物観察会

肥後細川藩の薬園”蕃滋園”
(1756年開園)の流れをくむ薬用植
物園で、季節の植物を観察しよう。

日 時／11月5日(土)

11:00～13:00

14:00～漢方薬「紫雲膏
(しうんこう)」作り体験

場 所／薬学部附属薬用資源エコフロン
ティアセンター管理棟前集合
資料代／100円、筆記用具持参

【問い合わせ】

薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター

矢原 Tel.096-371-4381

E-mail:yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp

ばんじさい
➔ 第1回「蕃滋祭」(旧薬学展)



昨年度125周年を迎えた薬学部が
新たな飛躍に向けて、恒例となってい
た「薬学展」を一新！第1回「蕃滋祭」を
開催します。大学生の気分を満喫する
模擬講義や「やけどの薬を作ってみよ
う」などの公開実験、薬剤師体験など、

薬学部ならではの楽しい体験が待っ
ている。6日13:00～熊本体育館では
スペシャルライブも開催。“熊薬祭”音楽
プロデューサー・YANAGIMANも登場！

日 時／11月5日(土)～6日(日)

11:00～13:00

場 所／大江キャンパス

事前申込／公開実験・薬剤師体験への
参加は要予約。予約連絡票に
必要事項を記入の上、
096-371-4639までファクス
にてお申し込みください。

【問い合わせ】

薬学部 Tel.096-371-4635

➔ 研究所を見学しよう!! ～生命科学の「今」を体感する～



本九祭2011「発生研共同企画」とし
て、実際の研究室を見学し、生命科学
の研究現場を体感してもらいます。



生きた実験動物や幹細胞(ES細胞・
iPS細胞)も展示します。

日 時／11月5日(土)～6日(日)

11:00～17:00

場 所／発生医学研究所

参加費／無料 ※事前申込不要

【問い合わせ】

発生医学研究所

Tel.096-373-5786

E-mail:imeg@kumamoto-u.ac.jp

URL:http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/

➔ 熊本大ひらめき☆ときめきサイエンス
～ようこそ大学の研究室～

石を見て触って、ハンマーで叩いて
学ぶプレートテクトニクス

人吉市の大畑地先ではいろいろな時代
の岩石が複雑に混在する大きな崖がありま
す。その崖で岩石標本を制作します。また、
プレートテクトニクスに関する内容も紹介。

日 時／12月26日(月)

場 所／人吉市立第三中学校

対 象／中学生、高校生 定 員／25名

申込締切／11月30日(水) 参加費／無料

【問い合わせ】

教育学部理科教育(地学) 田中

Tel&Fax.096-342-2538

E-mail:hitoshi@educ.kumamoto-u.ac.jp

➔ 「熊本へ行こう! 明治を探そう!! ～第2回熊本大学滞在型セミナー～」



昨年「五高と漱石」で好評を博した
熊本大滞在型セミナーの第2回目。今年
は明治の熊本をテーマにした2泊3
日の講座です。近代日本の勃興を語

る上で欠かせない舞台である熊本の
街歩きを楽しみながら、明治の青春
群像を五高記念館で学びませんか。

日 時／11月3日(木・祝)午後～

11月4日(金)終日

11月5日(土)午前

対 象／どなたでも

事前申込／申込書に必要事項記載の上
ファクスまたはメールで受付

参加費／25,000円(税込)(交通宿泊費等
滞在費用は別途参加者負担)

【問い合わせ】

マーケティング推進部地域連携ユニット

Tel.096-342-3144

⇒ 学生および若手自治体職員による公共政策コンペ

テーマは「みんなで考えよう！熊本の将来」。熊本や自分たちの将来について日々考えている学部生、大学院生および自治体職員が政策提言を行う「フォーラム」（語り合いの機会）です。事前公募した学生や自治体職員が、コンペ形式でプレゼンテーションを行います。熊本大学賞などの各賞の他、ご来場者の投票による「市民賞」も贈呈します。

日 時／11月6日(日) 13:00～

場 所／工学部百周年記念館

対 象／大学生、大学院生、教職員、行政職員および興味のある一般の方

参加費／無料 ※事前申し込み不要



【問い合わせ】

政策創造研究教育センター

Tel.096-342-2044

Fax.096-342-2042

URL : http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/seisakusozo/compe/h23/h23compe_bosyu.html



⇒ NPO法人熊本自然災害研究会 20周年記念シンポジウム

自然災害の被害を小さくするために減災が必要です。そのためには災害情報の伝え方が重要になります。今回は「命の綱『災害情報』について考える」のタイトルでシンポジウムを開催します。一般市民の方々の参加を歓迎します。

日 時／11月25日(金)

対 象／研究会会員および一般市民
事前申込／当日参加も可

参加費／無料

【問い合わせ】

大学院自然科学研究科 北園

Tel. 096-342-3540

E-mail: kitazono@gpo.kumamoto-u.ac.jp

⇒ 第6回ホームカミングデー



本学の卒業生と学生、教職員との相互交流を図ることを目的に開催。大学の近況報告や学生によるアトラクションをはじめとする多彩な行事と交流の場を用意しています。

日 時／11月5日(土) 13:30～17:00

場 所／工学部百周年記念館

【問い合わせ】

運営基盤管理部総務ユニット

Tel. 096-342-3116

Fax. 096-342-3110

E-mail: kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp

⇒ 熊本県広報課発行週刊メールマガジン「気になる！くまもと」で本学出身の宮崎美子さんのエッセイが始まりました

熊本県広報課が毎週木曜に発行する週刊メールマガジン「気になる！くまもと」で、本学出身の女優・宮崎美子さんのエッセイが始まりました。本学学生時代のエピソードや最近気になっていること、注目していることなど、くまもとにまつわるさまざまなことを宮崎さんがつづります。エッセイは毎月1回の更新。3月まで連載されます。

URL : <http://www.kininaru-k.jp/>



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.15(平成23年6月1日～8月31日)

卒業生の皆さま、在学生の保護者の皆さま、法人・団体等の皆さま、本学の退職者及び教職員の皆さまからご寄附をいただき、平成23年8月31日現在、その寄附総額は約4億8,960万円となっております。皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成23年6月1日から8月31日までの間に入金を確認させていただきました個人185名、6法人・団体等の寄附者すべての皆さまへ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆さまの更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ ()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【200万円】	桑野 幸徳(502)	【60万円】	田口 宏昭(110)
【30万円】	西山 忠男(50)	【20万円】	谷口 功(100)
【10万円】	藤井 博行(20)	【5万円】	緒方 理友
【5万円未満】	井川 正明	内田 豪峰	榮留 隆
	原 洋右	上村 晃	加来 雅史
		山中 進(15)	谷田 実
		古庄 伸行	
		松岡 通子	

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ []内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

赤星 宏輝[3]	綾 洋一郎	有田 和徳	伊方 敏勝	生田 翔[2]	板井 正美	一木 政彦[4]
稲岡 博信	井上 久	井上 吉弘[2]	宇佐美しおり[8]	臼杵 昭子	大串 渉[3]	太田 貞之
小川 公人	尾崎 茂樹	川上 恵偉[3]	北川 浩治[2]	熊野 庸祐	隈部 寿一	小屋迫秀規
近藤 徹也	西東 葉子	佐藤 友紀	下津 昌司	白水 克子	末永 隆	末永 正良
末廣 邦昭	鈴木 康平	千住 寛[3]	高尾 忠次	高木 克公[3]	田子森恒美	田中 裕之
田中 雄次[2]	月足 博	鳶川 忠久	寺本 博明	長崎 孝博[2]	中野 定司	中野 裕二
中山 直美	西村真理子[3]	畑尾 文男	花岡 泰治	浜口 浩	原田 幸雄	日高 広義
福島 幹郎[2]	福所 尚利	藤崎 順子[4]	藤田 昌大	二塚 信[2]	正木 秀信	益田 恵真
松浦 道也	松尾 敏之[3]	松木園美也子	松田 正則[2]	松本 齊	松本 芳彬[3]	宮脇 仁
向田 敬二[2]	村井 淳男[4]	村中 靖博	森田 寛二	矢崎 暁	山本 勇心	結城 基夫
湯田平浩史	吉居 貢	吉田 貞徳				
医療法人一桜会吉留クリニック		医療法人社団愛育会福田病院		医療法人社団一陽会緒方消化器内科		
医療法人山田クリニック[2]		株式会社南陽				

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人96名、1法人・団体等

「熊本大学同友会」第25回通常総会が開催されました

熊本大学同友会(代表幹事・米満弘之、森正臣、赤星敦、会員数121人)は、8月30日にホテル日航熊本において、熊本大学同友会第25回通常総会および懇親会を開催しました。

熊本大学同友会は、熊本に在住する本学の卒業生が、学部、学科および年代の垣根を越えて交流を図り、母校や地域の発展に寄与しようと25年前に発足し、活発に総会や例会を開催しながら活動しています。

当日は、来賓として谷口学長をはじめ各学部長のほか、同窓会から岡村宏同窓会連合会会長(工業会会長)、各同窓会会長、同会会員など約65人が出席。冒頭、米満代表幹事の「新入会員を含め、多くの方にご参加いただきました。今後も懇親会や講演会などを定期的で開催し、大学との関係も深めていきたい」との挨拶に続き、谷口学長から大学の近況報告を含めた挨拶が行われました。

その後、昭和44年理学部の卒業で同会会員でもある船津昭信氏(化学及血液療法研究所理事長・所長)による「ワクチンの将来」と題しての講演が行われ、引き続き開催された懇親会では、親交を深め合う会員たちの姿が見られました。



【熊本大学同友会についてのお問合せ
および入会申し込み】

Tel.096-227-0053(同友会事務局 田尻)

しなやかな発想が、
世界を動かす。

熊本大学テレビ放送公開講座

私はここで輝く。

～熊大の女性プロフェッサーたち～



文学部
木下 尚子教授



大学院自然科学研究科
岸田 光代准教授



発生医学研究所
糸 昭苑教授



教育学部
八幡 彩子准教授



大学院生命科学部
前田 ひとみ教授

11月26日(土) RKK熊本放送にて放送開始! 毎週土曜日15:30~16:00 5週連続放送!
【再放送】11月28日(月)から毎週月曜15:30~16:00(5週連続)



国立大学法人
熊本大学

熊本大学政策創造研究教育センター
TEL.096-342-2044 FAX.096-342-2042
E-mail seisoken@gpo.kumamoto-u.ac.jp
<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>